



「うちのまちをこんなまちにしたい」という思いや

目標を実現していくため、

- どうやって進めていくか
- 進め方のコツ

を紹介しています。

進めていくには、
なるべくたくさんの人に呼び掛け、
思いを共有し、
まちを知って、
思いをきいて、
また呼び掛けて、
みんなで共有して…
行きつ戻りつしながら、
それでも少しずつ目指す姿に近付いて行くのだと思います。

まずは、具体的にやってみましょう。

第2章

「ビジョン」を 実現するために



「ビジョン」を実現するために ① たくさんの人に 呼び掛けるコツ

実現に向けて、
なるべくたくさんの人と取り組んでいきましょう。

まちの“自治組織”と 連携しつつ、幅広い人と

「もっといいまちにしたい!」と関心を持つ、他の人にも呼びかけて、取組を広げていきましょう。

昔からその地域にお住まいの方は「自分のまち」についてよくご存じかもしれませんが、新しく地域に移り住んでこられた方や若い世代の方は、まちのことをあまりご存じないかもしれません。

自分の生活しているまちをよりよくするための課題や目標が分かったり、まちの歴史や活動を知ること、まちに関心が出ると、一緒に活動を進めていける仲間になってももらえるかもしれません。なるべくたくさんの人に声を掛け、一緒に取組を進めていきましょう。

いろいろな活動をして いる人と

京都にはたくさんの大学があります。最近では、個性豊かな地域に出かけて行って、地域の課題に合わせた研究を進める学生さんが増えてきました。

また、京都は1人当たりのNPO(営利を目的としない市民活動団体)の数が、東京に次いで2番目に多いと言われるほど市民活動が盛んなところ。地域の課題に合う活動をしているNPOもあるでしょうし、具体的な地域に根差した活動をしているところもあります。

こういう方々の協力を得ながら進めることも有効な手段の一つです。



事例紹介

学生や関係機関と連携して進めている事例

北部山間地域にあり、豊かな自然や歴史と文化が伝わる地域ですが、小学校の休校や若年層の流出等に伴う少子高齢化が課題の一つとなっていました。

平成19年、住民を中心に佛敎大学の先生や学生、北区役所、まちづくりアドバイザー[※]、北区社会福祉協議会の連携のもとに「小野郷地域まちづくり推進委員会」が発足しました。地域の休耕田を活用するプロジェクトに取り組む中で、相互理解や信頼関係が生まれ、メンバー間の関係性が「支援する側/受ける側」、「もてなす側/もてなされる側」ではなく、それぞれの立場で一緒に将来に向けて取り組むメンバーという意識が生まれてきたそうです。



おの郷
小野郷学区(北区)

※ 「まちづくりアドバイザー」とは、まちづくりに関する専門的な立場から、区役所・支所の職員とともに、区民の自主的活動を支援し、区役所・支所が実施する「まちづくり事業」全般の企画・運営への助言を行う「まちづくりの専門家」です。

各区役所・支所で職員とともにまちづくりに関わる事業を推進するほか、地域の課題解決のため、地域に出向いて地域の方々の活動をサポートします。

→ こちらもご覧ください。

● まちづくりアドバイザーについて (京都市ホームページ)

京都市 まちづくりアドバイザーについて

検索

<http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000083697.html>



たくさんの人に
呼び掛けるコツ

まず、思いのある人が集まりましょう



自治組織の役員



まちづくり委員会

まちの“自治組織”と連携しつつ、思いのある人が
参加できるようにしましょう。

町内会や自治会、自治連合会等の自治組織は多彩な取組を進めておられて手一杯なうえに、地域活動の実務を担える方は、既にいくつもの役を兼務されていたりして、新たな地域活動に取り組むのは難しいと思われるかもしれません。

さらに、既存の自治組織の役員は、1年や2年などの交代制で任期があることが多く、継続した取組が困難という状況もあります。

一方で、既存の組織に突然参加していくことは難しいことなので、既存の自治組織とも連携しながら、思いのある人が参加できる「まちづくり委員会」のような組織をつくることは、一つの方法ではないでしょうか。



たとえば、こんな組織があります。（それぞれの特徴だけ紹介しています。）

事例紹介 1

じょうそんごさい

城巽五彩の会（中京区）

➡ 取組については、36ページをご覧ください。

- ・「職、住、遊、学、交」の五つの彩りを目指したまちづくり活動に取り組んでいる。
- ・自治連合会に属する各種団体であるが、町内会の持ちまわり委員制ではなく参加する意志のある人たちの集まり。
- ・マンションにお住まいの方や企業（ホテル）もメンバーとして参加している。
- ・自治連合会や他団体と連携し、イベントをサポートしている。（共催行事が多い）



城巽五彩の会の方々



本能まちづくり委員会の様子



賀茂葵コミュニティの会議の様子

事例紹介 2

ほんのう

本能まちづくり委員会（中京区）

取組については、38ページをご覧ください。

- ・町内会に加入されていないけれども、興味があれば参加できる。
- ・マンションにお住まいの方もメンバーとして参加している
- ・学区外の方でも参加でき、この地域に興味を持つ学生もメンバーになっている。
- ・学区内にお住まいの方同士の「交流を促進する」ための活動をしている。

事例紹介 3

かもあおい

賀茂葵コミュニティ（北区～左京区）

- ・北区から左京区にまたがる広い地域で連携している。
- ・地域の自治組織だけでなく、地域の社寺や商店街、大学、NPO、文化施設など、幅広い主体がかかわっている。



たくさんの人に
呼び掛けるコツ

つながりづくりを 意識して取り組みましょう

つながりづくりを意識されている楽しい事例 ✧

取組の過程でつながりづくりを楽しみましょう。

目指すまちの姿に近付けていくには、その過程で、できるだけたくさんの人に共感して仲間になってもらい、一緒に進めていくことが大切です。

例えば、「イベントに参加する人を増やす！」ということだけでなく、参加される方にも一緒にがんばってもらえるよう、企画や準備、後片付けも手伝ってもらうなど「スタッフ」になってもらえるようにすると、そのときに話がはずんで、つながりができていくかもしれません。

事例紹介 ①



ふれあい朝市で「農のあるまち」を発信

こが 久我・久我の杜・ はづかし 羽束師の朝市（伏見区）

農地と住宅地が混在するこの地域では、「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」を中心に、地域の課題解消やビジョンの作成に向けて話し合う中で、「農のあるまち」というこのまちの特性をまちの人にアピールし、身近に感じてもらうと「ふれあい朝市」を開催されています。

事例紹介 ②



写真を見ながらわいわい語り合う取組

まちかどアルバム

昔の写真を持ち寄って、まちの歴史や記憶を語り合い、まちの過去・現在・未来に思いををせながら地域の魅力の再発見と住民交流のきっかけにしようという取組を、あちこちで開催されています。写真を見ながらわいわい語り合い、今のまちの姿がどのようにできてきたか、先人がどのような役割を担ってきたかを発見することで、地域の知恵や思い出を共有することができます。

事例紹介 ③



「なやまち住まい交流会」で「おもてなしのこころ」を実践

なやまち^ず住まい交流会（伏見区）

納屋町商店街の一角にマンションの建設計画が持ち上がり、1階が店舗ではなくなると商店街のにぎわいが失われてしまうという危機感から、1階には店舗を誘導しようという「地区計画」※や、商店街の憲章として「納屋町伏見のおだいどこ宣言」を作成されました。憲章にこめた「おもてなしのこころ」を実現していこうと、マンションにお住まいの方を歓迎し、商店街のファンを増やすことを目的に「なやまち住まい交流会」を開催されています。

➡ ※「地区計画」について、詳しくは46ページをご覧ください。



「ビジョン」を実現するために

2 思いを共有するコツ

お互いの考えていることや、問題意識を知って理解を深めていきましょう。

問題だと感じているのは1人かもしれません。また、人によっては別の見方もあるかもしれません。まちの人が同じスタートラインに立って話し合える環境をつくることが大切です。

そのためには、顔を合わせて話をして、その場の参加者同士で、お互いの考えていることや問題意識を知って理解を深めていきましょう。

話合いの工夫

話し合っていることを、大きな紙に書いて張り出すなどみんなが見られるような形で記録すると、これまでに話したことに立ち戻れたり、議論の到達点が確認できるようになり、思いを共有しやすくなります。

話をするだけでなく、その場を一緒に見てみるとか、そのことについて調べてみるということも役に立つかもしれません。



同じまちの人たち

思い
を共有

大きな紙に話合いを記録する



アドバイスしてくれる 「専門家」も役に立つ

また、話合いの場を客観的に見てまとめてくれる「専門家」がいることで、議論がスムーズに進むことがあります。

専門家ってこんな人

議論をちょっとクールに
ながめて分析したり、
話し合ったことを
文章にまとめたり、
問題解決に向けた
アイデアを出したり、
実態調査などを
手伝ったり、
参考になりそうな
事例を出したり、
協力を求められそうな人
や組織とつないだり、

…する役割の人のことです。



ちょっと注意！

「専門家」が話合いに参加する、と言っても、実際に話し合うのはまちの人です。「専門家」からは、専門の立場や知っている情報を生かしてアドバイスはもらえますが、自分のまちのことは自分たちで考えましょう。一番よく知っているのはまちの人です！

➡ 専門家に相談したい！という方は、48ページをご覧ください。相談先を紹介しています。

話し合いやすい雰囲気づくり

話し合いの場には、意見を出しやすい雰囲気づくりやしかけがあるとうまくいくことがあります。

たとえば…

- ・少人数のグループに分かれて話し合いましょう。大人数の中では、突然意見を求められても発言しにくいものです。
- ・参加者全員から話を聞けるよう工夫しましょう。
- ・出された意見を記録しましょう。

少人数のグループで話し合う





「ビジョン」を実現するために

3 まちを知るためのコツ

まずは自分たちがまちのことを
知ることが大切です。

「過去」を知る

「過去」を知ることで、
今のまちに対しても新
たな発見があったり、
まちへの愛着が深まる
ことにもつながります。



過去 まちの人の話を聞く

まちのことはまちの人が一番よく知
っておられるのではないのでしょうか。

古い写真を持ち寄って、まちの人と、
まちの歴史や記憶を語り合う「まち
かどアルバム」※
という取組も、
まちの過去を
知るのにつ
てつけの取組
です。



古い写真をもとにまちの
“記憶”を語り合う

「現在」を知る



現在 まち歩き

まちのいいところや、問題を感じ
るところ、その現状を見て歩くこと
で、普段見慣れているところでも新
しいことに気付くかもしれません。
歩いている人たちで、問題意識を共有
することにもつ
ながります。

歩いた後は、
気付いたことを
話し合い、記録
しましょう。



まちを歩く

「制度」を知る

まちは様々な法律や条例の制限
を受けています。

例えば、「この場所にはどんな
建物が建てられるか」とか「どれ
ぐらいの大きさや形、デザインの
ものが建てられるか」というよう
なことが決められています。



現在 他の地域の人話を聞く

同じような悩みをもつ他の地域の
取組について聞くと、自分のまちに
も参考になるなと感じたり、この辺
は自分のまちと違うなと感じたり、
自分のまちを客観的に見ることがで
きます。

制度 制度を知る

法律や条例等の内容は、一見した
だけでは分かりにくいので、京都市
の担当者や、専門家に分かりやすく
説明してもらうことをおすすめしま
す。相談窓口となる担当課はそれぞ
れの制度によって分かれています
が、よく分からない…という場合は、ひ
とまず都市づくり推進課か、京都市
景観・まちづくりセンターにお問い
合わせください。

(※連絡先は、48ページをご覧ください。)

ホームページでも
制度が調べられます



京都市のホームページで、
都市計画の制限について調べることができます。

● 都市計画情報等について

京都市 用途地域検索

検索

http://www5.city.kyoto.jp/tokeimap/search_main.htm

→ ※まちかどアルバムについては、21ページでも紹介しています。



「ビジョン」を実現するために

4 まちの人の意見を集めるコツ

たくさんの人に発信して伝え、意見をしっかりきいて、取組に生かしていくことが大切です。

まちの人すべてが会議に集まることはできません。

広い範囲でものごとを考えようとすると、関係者も多くなりますが、今話し合っていることを、まちの人に伝えること、そして、まちの人の反応を受け止めて、取組に生かしていくことが大切です。

特に、会議などで話し合っていることは、なるべく毎回、まちの人に広く発信していくことが大切です。まちの人から反対意見が出るがありますが、内容をよくきいてみると、「きいていなかった！」ということと反対されていることがあります。また、取組の内容に反対という場合でも、早い段階から話し合うことで、取組を改善することもできますし、信頼関係が生まれて「みんながそこまで言うなら…」と理解を示されることもあります。話合いの早い段階から何度か意見を求められるような機会があると、その後の取組がスムーズに進められるのではないのでしょうか。

意見をきく取組

まちの人の思いを酌み取ろうとするときには、可能な限り、顔を合わせて話しましょう。文書だけで思いを伝えることには限りがありますし、相手の真意を測り損ねることもあるからです。

アンケート調査などと併せて、できる範囲で顔を合わせて話す機会を設けることをおすすめします。また、意見をきく機会を生かして、今後の取組と一緒に進める仲間になってもらえるよう呼び掛けていきましょう。

→ つながりづくりを意識した楽しい取組の事例を20～21ページで紹介しています。



きく取組

伝える取組

地域で発行する情報誌で発信する

学区などで情報誌を発行されていることがあります。その場を借りて、まちの人に情報を発信しましょう。



伝える取組 1

伝える取組 2



会議のたびに報告されたニュース

活動報告をする

上で紹介した「地域の情報誌」のほかにも、会議で話し合ったことや今の段階での到達点などを、随時、まちの人に発信していくことが大切です。

地域の情報誌の発行ペースが取組のペースと合っていない場合もあります。取組の活動報告として、新鮮な情報を伝えていくことも必要です。会議の場に参加されていない方との情報共有にもなりますし、後から見直したときに、活動の記録として使うこともできます。

ホームページで発信する

京都市景観・まちづくりセンター（48ページで紹介しています。）では、地域の情報発信ツールとして、ホームページの立ち上げ支援や運営支援※を行っています。最初の立ち上げや日々の更新作業でお悩みの方は、相談されてみてはいかがでしょうか？



伝える取組 3

まちのホームページを立ち上げる支援制度もあります

※（財）京都市景観・まちづくりセンター団体賛助会員（年会費1口5万円から）となった、自治組織等が対象です。



たくさんの人に
呼び掛けるコツ

まちの人に伝える方法

取組の成果がまとまってきたら、
まちの人に伝えていきましょう。

まちの中でよくしたいことがたくさん出てきたとき、また、時間をかけてじっくり目標に近付けていきたいとき、「うちのまちをこうしたい」ということを「まちのビジョン」として何か目に見える形でまとめると、取組を進めている人同士で確認することもできますし、それをまちの人に伝えて協力を求めていくことができます。

まちの人に「まちのビジョン」を発信しましょう！

伝える方法 ①

冊子や
パンフレット
にして説明する

まちの成り立ちや、歴史、地域の活動をまちに移り住んできた人や若い世代に伝えたい！など、伝えたいことが盛りだくさん！というときでも、写真やイラストなどを使って分かりやすく説明することができます。



→ 詳しくは 34～43 ページの事例集でも紹介しています。

伝える方法 ②

マップ
に盛り込む

御池通沿道で、町名の由来や戦前の町並みなどを紹介した「今昔マップ」



まちの人に伝えたいことをマップにすると、持ち歩いて見ることができて便利です。

伝える方法 ③

こまふだ
駒札
を立てる

まちを訪れる人にも知ってもらいたい、常に見えるところに表示したいというときには駒札を立てるのもよいでしょう。

※ 駒札とは、将棋の駒の形をした立て看板のことです。

姉小路界隈町式目（平成版）



まちさだめ
三条小橋商店街町定



「ビジョン」を実現するために

5 ルールも活用する

みんなで考えた「まちのビジョン」を実現するためには、みんなが守る「まちのルール」を考えることも必要です。



みんなで守ることを「ルール」にする

まちの目標や将来像を実現するためには、まちの人自身や新しく移り住んでくる人が守るべき「ルール」も必要です。

今問題になっていることを改善するために、「○○という行為はしない」とか、「△△は何時まで！」というようなことを「ルール」にしてまちの人に伝えることで、目指すまちの姿に近付きます。

地域で決める「ルール」には、生活のルールを含め様々なものがありますが、そのうち「建築物等に関するルール」については、法律などに基づいた仕組みに位置付けることができます。

法律に基づく仕組みで実効性を高める

法律に基づいた「ルール」には、京都市全体に決められているものの他に、まちの人が考えて、地域の特性に合わせた「地域ごとのルール」をつくることのできる仕組みがあります。こういった仕組みを活用することで、より実効性を持った「ルール」とすることができます。

→ 「ルール」について、46ページで紹介していますのでご覧ください。

「地域ごとのルール」や、
ルールの目的、背景など
を伝える

事業者



この地域で
こんな家を建てます

市の担当者



この地域はこんなビジョンで
まちづくりをがんばってますよ！

「地域ごとのルール」を説明するときに、 まちの目標や方針も伝えられる

法律に基づいた「地域ごとのルール」には、「なぜそのルールを定めるか」という理由として、まちの目標や方針が書かれています。

京都市の窓口で申請をしに来られる方に、京都市の窓口担当者から、「ルール」を伝えるだけでなく、まちの目標や方針を説明することで、そのルールを決めた背景や目的などを伝えることもできます。

将来的には…

新しく建物を建てる際に申請に来られるのは事業者が多く、実際に住まわれる方ばかりではありません。まちに愛着をもって住み続けてほしい人にまちのことを知ってもらうためには、転入の手続きをされるときがよいのかもしれません。地域の方が「うちのまち」を伝えようとまとめたものを、区役所の窓口に来られる方に渡せたら！というアイデアも出ています。



続けるコツ ①

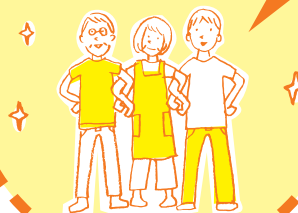
ちょっとは休憩しても
いいけれど、また動き出しましょう



取組を
進めている最中は無
我夢中！という時期もあり
ますが、一区切りついたときには
はちょっと休憩もしたくなります。
せっかく動き出した取組は、長
期に休憩してしまわず、何らか
の方法で続けていくことが大
切です。

続けるコツ ④

ときどき振り返ってみて、
自分をほめましょう



今まで
の取組を振り返って
みると、結構いいまちにな
ってきたなとか、人の輪が広が
ってきたなと思えることもあるで
しょう。もちろん反省するところ
もあるかもしれませんが、自分た
ちで積極的に評価できるところ
を探すと、次の活動への意
欲もわいてきます。



「ビジョン」を実現

するために

6 続けて

楽しみながら
続けていく
ご紹介し

いくコツ

息長〜く、
コツを
ます。

続けるコツ ②

定例会を持ちましょう



まずは気軽な情報交
換でもよいので、月1回など
と決めて活動を続けていると、
何か新たな課題が見えてきたり、
状況が変わったときにも対応できま
す。また、活動のエンジンがかかっ
ている状態なので、新たな課題
にでもすぐに取り掛かってい
くことができます。

続けるコツ ⑤

まちの人に
助けてもらいましょう



できる
ことから、できる人
が、できるように取り組ん
でいくことが大切です。「そんな
ことぐらいなら…」と手伝って
くれる方もおられるはず。入口を
広く、敷居を低く、まちの人に助け
てもらえるようなことをたくさ
ん用意して、まちの人を頼
って進めましょう。



続けるコツ ③

自分が楽しみましょう



たといよいことでも
みなさんがヘトヘトにな
っては元も子もありません。活動を「人のため」だけ
ではなく、「自分の楽しみ
のため」におもしろがってし
ましょう。

続けるコツ ⑥

協力してくれる人や
制度を探しましょう



動いているところには
情報も集まってきます。人も
集まってきます。お金も集まって
くるはず。目指す方向がはっきりしていると、
協力する方も協力しやすいのではない
でしょうか。
京都市でもお手伝いする制度がた
くさんあります。一度お声掛
けください！

→ 連絡先は、48ページをご覧ください。